

世界一を目指せ

Don't Settle for Second

○池田修二, Shuji Ikeda
E-mail: shu.ikeda@tei-solutions.com

発表者は日本企業、アメリカ企業を経験し、その後起業[1], [2]した経験を持つ。私のメッセージがこれから社会に旅立つ夢多き学生の方々に少しでも参考になれば幸いである。

日本の産業は先輩方々の努力により、革新的な技術開発をもとに、大きく成長してきた。性能向上、価格低減など、日本の得意とする改良・改善により、業績は急成長を遂げた。製品が成熟し、誰でもつくることができるようになると、日本の優位性は減少する。厳しい価格競争となり、労働賃金の安い他国に製造が行くことになる。大手企業でも、価格競争に勝てず、事業分野の切り離しや、他社との統合による、業務改善等を進めることとなる。多くの製造業は戦後の創世記、その後の成長期を経て、今成熟期を迎えている。コスト競争が激化し、リストラによる失業が増えているのが現状である。大企業にいれば安心ということはない。会社が潰れなくても、自分の所属する部門がなくなる可能性があり、リストラされれば、個人にとっては、会社が潰れたことと変わりがない。低成長時代に企業が生き残るためには、画期的な製品を次から次へと生み出していく必要がある。このためには優秀な人材が必要となる。世界中から優秀な人材を集めたところが勝ち残る。国の垣根がなくなる、人材のグローバル化が始まるのだ。逆に言うと、優秀でなければ選ばれない時代がくる。人を解雇できないのは日本の良いところでもあるが、競争力低下の最大要因の一つでもある。世界規模での競争に勝っていくためには、何らかの形で企業が優秀で

ない人を解雇できることが必要であり、そういう時代がやってくる。自分が一流となり、選ばれる人間にならないといけない[3]。

学生である今現在、一流と胸を張れる人は少ないだろう。数年後にどの分野でも良いから、自分が誰にも負けない世界一といえるものを持っているか、ということになると、これは今後の心構え次第である。一流であれば、会社が潰れても、成長を期待できる会社を選んでくれる。就職先には自分が成長できる会社（組織）を選んで欲しい。数年後に自分が（ある分野で）世界一になれる会社だ。会社の大きさではない。もちろん自分がその会社に入って、何をするか、であり、心構え次第である。会社から何をさせてもらえる（やらされる）かではない。自分のやりたい事ができるところ、自分の将来にとって、プラスになる就職先を選んで欲しい。会社があなたを選ぶのではない。自分が会社を選ぶのだ。自分のやることを明確に述べ、それができる会社であるか判断する。双方の意見が合えば、採用されるだろうし、採用されないところには行かないほうが良い。自分を安売りしないで欲しい。そして、社会に出て、必ず、何かしらの分野、領域で、世界一と言われる人間になってもらいたい。

【参考文献】

- [1] <http://tei-solutions.com/jp/>
- [2] <http://www.titech.ac.jp/news/2014/029387.html>
- [3] <http://www.bio.titech.ac.jp/event/kuramae.html>